（別紙８）　［認知症対応型共同生活介護用］

１．　評価結果概要表

作成日　平成　20年 7月　27日

【評価実施概要】

事業所番号	０１７０２０１０９９
法人名	有限会社　ハッピーライフ
事業所名	グループホーム・チロリン村
所在地	札幌市北区屯田5条１２丁目１２－１０ 電話：　０１１－７７４－３９９３

評価機関名	株式会社　社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南３条東２丁目１		
訪問調査日	平成20年7月23日	評価確定日	平成20年7月30日

【情報提供票より】（　平成２０年 ６月 １日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・平成（○）　１４年１１月２０日		
ユニット数	１ ユニット	利用定員数計	９　人
職員数	９ 人	常勤　8人,　非常勤　1人,　常勤換算　7人	

（２）建物概要

建物構造	木造防火サイディング　造り
	２階建ての　１・２　階部分

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	40,000　円	その他の経費(月額)	光熱水費：　25,000円 暖房費(11～3)：5,000円	
敷　金	有（　円）　無（○）			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　円） 無（○）	有りの場合 償却の有無	有　／　無	
食材料費	朝食	300　円	昼食	300　円
	夕食	400　円	おやつ	100　円
	または1日当たり　1,100　円			

（４）利用者の概要（　6月　1日現在　）

利用者人数	９ 名	男性	２ 名	女性	７ 名
要介護１	０　名	要介護２	３　名		
要介護３	３　名	要介護４	２　名		
要介護５	１　名	要支援２	０　名		
年齢	平均　89.4 歳	最低	85 歳	最高	94 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	ゆりがはら内科ケア＆クリニック　箱木歯科　勤医協北札幌

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム　チロリン村」は、近くに公園や防風林など、緑の豊かな環境にあり、閑静な住宅街に立地している。平成14年の開設以来、代表と運営に関わるホーム長は志を一つにして、利用者の個性を受け入れ、その人らしく地域で平和に過ごす理想郷「チロリン村」の実現を具体的に進めている。利用者は得意な面を発揮し、職歴を生かした作業や花・野菜作りなどを楽しみながら、職員と共に過ごしている。ホーム前の芝生ではお茶を飲みながら近所の人と会話を楽しみ、2階のロビーや広いバルコニーでは家族との時間を過ごすなど、安心して生きる喜びのある環境を、ホーム一体となって専門的な視点と技術で提供している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	運営者は職員の採用時に理念を伝え、職員はミーティングや全体会議などで話し合っている。市からの委託には積極的に協力し、同業者とは交流を通してサービスの質の向上に努めているなど、前回の取り組みたい項目は改善シートを使用し、具体的に進めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価及び外部評価の意義を説明後、各自にブロックごとに分けて記入してもらい、個別に話を聞いてホーム長、管理者でまとめた。全職員で取り組み、ミーティングなどで繰り返し話し合うことで理解が深まっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
	運営推進会議は年間計画に沿って実施している。今後もテーマに沿った関係者の参加を得て会議を充実させたいと考えており、運営推進会議の機会を前向きに捉えている。市への協力では、今後は認知症介護の実践者研修、リーダ-研修、認知症対応型サービス管理者研修などの実習生を受け入れるよう準備に取り組んでいる｡市、区との協力体制の中でサービスの質の向上に向けて熱心に取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
	ホーム便り「チロリン村」を毎月発行している。年に2回の家族会では利用者の暮らしぶりをDVDでも報告して率直な意見を聞いている。ホーム長は、地域住民の困りごとの相談を受けているが、種々のサービスを利用する中で、家族は意外に本音を話していないことを実感し、ホームへのどんな些細な意見でもを聞こうとする姿勢で対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	地域住民との身近な交流が頻繁に行われており、ボランティアによる種々の催しも楽しんでいる。小学校の運動会を見に行き、また、子供たちの見学や中学生の学習体験の訪問があるなど、双方の交流になっている。地域「子供SOS」に協力するほか、市の依頼には積極的に協力し、ホーム長は講師（キャラバン・メイト）として出向き、地域住民に認知症の理解が得られるよう取り組んでいる。

2. 評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の暮らしを支える5つの項目を事業所の理念に据えている。その中に「地域町内会等での交流の場を広げ、生きがいのもてる支援をします」との文言を入れ、開設当初から地域との関係を大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関、居間、利用者の居室などに掲示し、常に理念の意識化を図っている。「その人らしい暮らし方の支援」を中心に、運営者は職員の採用時に伝え、職員は理念がケアに生かされているか、ミーティングや全体会議などで確認している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者は町内会の役員も受けて、地域との関係作りを深めてきた。公園の草取りには利用者も一緒に参加している。七夕祭りには、利用者が子供たちにロウソクやジュースを手渡し、ホームでの花火遊びに、近所の子供たちも来るなど、身近なところでの交流が頻繁に行われている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義を職員に説明後、各自にブロックごとに分けて記入してもらい、個別に話を聞いてホーム長、管理者でまとめた。全職員で取り組み、ミーティングなどで繰り返し話し合うことで理解が深まっている。前回の取り組みたい項目は改善シートを使用し、具体的に進めている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年間計画に沿って2ケ月ごとに実施している。会議には利用者も参加しているので、雰囲気作りを工夫して、幅広いテーマで話し合っている。地区の防犯議題には講師を警察署から招いたり、介護制度の疑問点などを話し合ったりしているが、さらにテーマに沿った関係者の参加で会議を充実させたいと考えている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、市区担当者と相互の行き来で、常時、電話やFAXで連絡が出来る関係を築いている。ホーム長は市のキャラバンメイトに協力しており、今後は認知症介護の実践者研修、リーダ研修、認知症対応型サービス管理者研修などの実習生を受け入れるよう準備に取り組んでいる。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便り「チロリン村」を毎月発行し、全体的な報告と、手書きの個人へのメッセージを送っている。訪問時には、普段の暮らしを報告し職員の離職による交代も伝えている。また、金銭明細書の確認印を貰いコピーして領収書と一緒に渡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回、家族会を開き利用者の暮らしぶりをDVDでも報告しているが、家族には好評で率直な意見を聞く場にもなっている。個人の24時間の暮らしも撮り、問題があれば家族と一緒に話しあい、本人の状態を共有し、サービスに反映させている。	○	ホームへのどんな些細な意見でも聞く姿勢で対応されており、家族が気兼ねなく表せる無記名でのアンケートの実施も工夫したいとのことなので、それに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は雇用体制と研修に力を注ぎ、離職を抑えている。利用者が職員の離職について尋ねた時には説明をして、ダメージを意識させないような自然な対応を心掛けている。		

㈱社会教育総合研究所

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は段階に応じた年間計画を立て、受講は業務扱いにして外部研修の報告を内部研修に生かしている。職員採用時には、1ケ月間、理念に沿って仕事ができるように、運営者、ホーム長、管理者が内容に応じて指導し、現場では主任を中心に先輩について徐々に業務に入れるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の「グループホーム管理者会議」研修に、職員も参加したり、市主催の「認知症実践研修」に受講する中で同業者との交流が得られている。他事業所と一緒に家族参加の「いちご狩り」を実施し、職員は交流と同時に相互の刺激にもなり、ケアへの向上に役立っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の希望時には自宅や病院を訪問したり、本人が何度か来所する中で、安心と納得が得られるように努めている。入居後は職員が寄り添い、ゆったりした時間の流れで信頼関係をつくり、家族と一緒に話し合いながらホームの生活に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の出来ることを引き出し、感謝を伝えることで、利用者は自分の仕事のように行い、お互いに協働しながら暮らしている。古い諺や「いも団子」づくり等を教わり、時には職員がマッサージをして貰うなど利用者に学び、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や本人の意向も参考にして、一人ひとりの暮らし方を把握するように努めている。意思表示が困難な場合には、表情や目線などから思いを汲み取り、職員の思い込みではなく本人にとってどうか、見る角度を間違わないように検証している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、家族の意向や担当者、管理者の観察記録をもとに、計画作成担当者も利用者と話をする中から思いや意向を汲み取り作成している。センター方式を基に、それぞれの利用者に合わせた様式を独自に組み合わせたアセスメントを行い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況に応じて１ヶ月から６ヶ月の範囲で家族や関係者と相談をしながら個々に応じた見直しを行っている。利用者の出来る事の範囲が狭くなったりする生活障害に応じて随時計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて、受診の送迎を臨機応変に行っている。利用者の外泊期間を利用して、利用者の同意を得て短期入所の受け入れを行っている。ホーム長は介護経験を生かし、多くの介護相談に力をそそいでいる。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	複数の医療機関を協力医としているが、家族や本人が希望する医師の受診も可能である。心臓病などの専門医については、主治医からの紹介状を得て利用者の状況に応じた受診を行っている。主治医と看護師が交代で週１回往診を行い利用者の健康管理を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期における指針を作成し、利用者や家族と同意書を取り交わしている。前回の外部評価を踏まえ、終末期における対応も家族や医師と相談し、利用者や家族が安心できる体制を整えている。職員会議においても、定期的に重度化や終末期における話し合いを持ち対応を共有している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言葉や行動を制限する事が無いように、利用者を常に受け入れ、すべての面で気配りをしてプライバシーを損ねないように配慮している。前回の外部評価を踏まえ、面会簿は１枚ずつの記入用紙に変更し、個人情報の取り扱いには注意をはらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や要望を最優先にして、常に利用者中心の柔軟な支援に努めている。利用者の体調や残存能力を見極めて、ペース配分を考え、希望に沿った支援が出来るようにしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて食事の盛りつけや布巾たたみ、テーブル拭き、後片づけなどを職員と共に行い、楽しく食事が出来るようにしている。１週間に１回、利用者の希望や、畑で収穫した食材を利用して、お楽しみメニューの日を設定し食事を楽しめるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、土日も含めて毎日出来るように設定し、希望があれば午前入浴も可能になっている。季節や体調に応じて、シャワー浴や半身浴、足浴などを取り入れている。入浴拒否者に対しては、職員全員で原因を話し合い、楽しく入浴出来るように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や能力を見極めて、花の水やり、芝刈り、草むしり、窓拭きなど役割を持って楽しく生活出来るように支援している。週１回は、さとらんどや百合が原、温泉など遠くへの外出が楽しめるように配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や利用者の体調を考慮しながら、公園への散歩や家族との買い物、外食など希望に沿った支援を行っている。冬季期間は、大型商業施設へ出かけ、戸外に出かけられるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上１８時以降は玄関に鍵をかけるが、日中は、玄関もベランダも自由に出入りが出来るように鍵はかけていない。利用者が外出した時はそっと職員がついて行き、危険の無いように配慮している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者や近隣の住民と一緒に消防署の指導を受けながら、年２回の火災時の避難訓練を実施している。夜間を想定しての避難訓練も行っている。災害時のマニュアルと連絡網を作成し、２名の防火管理者を配置している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事の摂取量を記録し、２週間分の摂取状況、排泄、血圧などの情報を主治医に連絡して往診に役立てている。保健センターの指導を受けてメニューのカロリー計算も行ってバランスの良い食事に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の居間や台所は明るく、ゆったりとしたソファーが置かれ、利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。テーブルの上には、利用者が庭から切ってきた季節の花が飾られ、壁には、写真や利用者の作品が違和感なく飾られて親しみのある落ち着いた空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には、利用者の好みの物で手作りした表札がかけられている。室内には、タンスや机などの使い慣れた家具を配置し、思い出の写真なども飾られ、落ち着いて居心地良く過ごせるように工夫している。		

※ ▢ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。